

# PW — PRISONER OF WAR

作／鐘下辰男

彼等は死に、私は生きた。この確然たる事実の受け取り方に二様あるわけはない。あらゆる生還者はその告別式風の物悲しい仮面の下に、こういうエゴイズムを秘めている。心情の問題ではない、事実の結果である。

大岡昇平「俘虜記」

焼けたレンガやタン屋根、折れ曲がった鉄筋、山積みされた瓦礫など、舞台全体は「廃墟」の様相……。すべてのシーンはこの「廃墟」を舞台とする。

別シーンの登場人物は、時に同時に「廃墟」内に存在する。

あの日の蝉吟……。

「廃墟」の一隅に、眠るように横臥する潤子……。

その傍らにはヤカンとアルマイトのコップが転がる……。

遠くには港が控えているのか、コンクリートを叩く波音と、停泊する船舶の喧噪（その大半はアメリカ軍艦などの外国船の群）……。

昭和二十一年、八月九日——蒸し暑い夜……。

灼熱の熱帯夜……カチリという乾いた金属音とともにジッポライターが灯り、その炎に浮かぶ女の顔……。

粗末な団扇うちわを手に、薄手のワンピースを着た女……恵子。

背後の暗闇には男……瀬川。

時折まといつく蚊を団扇で叩く恵子は、その端正な顔立ちと品のいい化粧から、最近多くなつた米軍兵相手の「夜の女」の類たぐいではないが、はだけた胸元と流れるままにさせている湧き出る汗は、別な自堕落な匂いをもし出している。

恵子の背後でうつむく瀬川は、カーキの服に戦闘帽、いわゆる復員服姿……。

恵子 (空を見上げ) 一雨来そうな空気ね 本当に(団扇で蚊を叩く) なん

なのサ 外でオハナシだなんて

瀬川 (懐から紙幣数枚)

なんの真似(?)

瀬川 缶詰代です これを 旦那さんに返してください

恵子 なに 酔ってんの?

瀬川 返してください

恵子 あなた一人にただ食いさせたつてびくともしないわようちの店は

瀬川 返してください

恵子 ……

瀬川 お願いします

恵子 (胸元を提示し) じゃ入れてよ

瀬川 ……

恵子 (団扇で蚊を叩く) 早く

瀬川、恵子の胸元に紙幣を挟み込む。

瀬川 それと 昼間の話ですが あれも忘れてください

恵子 ね たかがかつぎ屋

瀬川 自分には出来ません

恵子 みんなやってんの 正直者が馬鹿見る御時世 大体奥さんともケリつ  
いたわけだしなに気にすることあるわけ？

瀬川 すみません

恵子 なんか言われたの？ うちの旦那に

瀬川 ……

恵子 言ったでしょ あの人あたしには頭上がらないんだし あたしが客と  
いちやつくのだって慣れっこなんだから 気にすることなんか  
に  
もないの

瀬川 すみません

恵子 ……（吸っていた煙草を地面へと捨て、足で踏み消す）  
なんだかあたしが悪者みたいね  
すみません

恵子はヤカンの密造酒カストリをカップに注ぎ飲む……ふたたび注ぎ、



恵子 (高笑い)

……

なあんだ そういうことね

はい？

恵子 あなたね この際だからはつきり言っとく あなたがわざわざ店(を

瀬川 訪ねてくれて 実は宮田が俘虜になって生きてたって話聞いた時ね

恵子 本当言うところとちよつと困っちゃったのよ だつてあたしと宮田が夫婦し

たのはたつたの一週間 そのうち戦死公報がきて それつきり宮田の

家とはバイバイ ませつかく知らせてくれたから 一応ああしてセ

ンチになって見せたりもしたんだけどサ だつてあの人の後にだつて

あたしはちゃんとこうして結婚もしてる 小説のヒロインじゃあるま

いし 現実に一人の男をいつまでも想うだなんて女が本当にいると思

う？ それも死んだ男を

……

瀬川 女の涙なんて下手に信じると馬鹿見るわよ あんなもんいくらだつて

恵子 流せるんだから

恵子、ふたたびヤカンのそれを飲み、手にしたジツポライタ  
ーを、カチリカチリと手の中で弄びはじめる……。

恵子 宮田ねえ… なんか随分昔のことみたい そ 明日が命日 あと五日  
がんばってれば戦争も終わったのにな

瀬川 自分ら収容所の人間は 八月十日の段階で政府がポツダム宣言を受理  
したことを知りました 班長殿が亡くなられたのはその知らせを聞い  
てからで――

恵子 (立ち上がり) さあてと あなたのあたしに対する変な誤解も解けた  
ところで (ヤカンを提示) 飲み直しましょうか

……

瀬川 あなた あたしが宮田のこと忘れられないでいる そう思ってたんで  
しよ？ お互い過去のこととはもうどうだつていいじゃない 第一昔の  
ことなんだかんだ言つてると 反動つて言われちゃうわ (笑う) 問題  
はこれからどうするかつてこと でしょ？

恵子 瀬川 これから？  
そう 二人はこれからどうするか

恵子  
……

瀬川に抱きつく恵子。瀬川、咄嗟に恵子を身体から引き離そうと、恵子は尚も抱きつこうと——アルマイトのコップがコ  
ンクリートに踊る——やがて瀬川はなんとか恵子を引き離す。  
遠く雷鳴……。

二人がもみ合った場所には、恵子のジッポライター……。  
瀬川、それを拾い上げ恵子へ。恵子、受け取る。

やがて恵子はカチリカチリとジッポライターを手中で弄ぶ。

恵子 あくあ ふられちゃった  
瀬川 やめてください  
恵子 誰も見ちゃいないわよ ここは夜になると人っ子ひとり通りやしない  
瀬川 やめてください  
恵子 今更なに(!?) 「生きて虜囚の辱め」 受けた人間が  
瀬川 ……

恵子 見てよ（あたしを）俘虜ふりよがどうのこうのなんて言ったら今の日本人にっぽんじんは

みんなそう あなただけじゃない つい一年前なら敗けた責任とって  
どうこうなんて人もいたようだけどサ 今はど？ 誰が考えてる？そ  
んなの みんなわかったの 要は生き残った者が勝ちだったってこと  
そう あたしたちは勝者なの 違う？

瀬川 そんなのは墮落だ

（笑う） えなに？

……

恵子 言いなさいよもう一度

瀬川 墮落です

遠く雷鳴……カチリカチリとジツポ……。

恵子 女にはね 人には言えない秘密がある でもあたしはそれを隠さない

だけ それを墮落っていうなら あたしの墮落はきつと今に始まった  
ことじゃない

恵子は瀬川に歩み寄る……瀬川、動けない……。  
やがて恵子は瀬川の身体を抱きしめる。

恵子 こうして波の音を聞いてると ふわふわ揺れて…… 深い 海の底に  
堕ちてく気分……

瀬川、恵子を突き飛ばす——恵子は港の縁に押し返される。

恵子 どしたの やっぱり変よ今日のあなた  
瀬川 それはあなただ

雷鳴が二人を射る——。

タイトル——『PRISONER OF WAR』

演芸大会に興じる俘虜たちが見える。  
俘虜の一人が、恵子をその演芸大会へと誘っていく。

瀬川  
……

瀬川は恵子を引き戻そうとするが俘虜たちに制せられる。  
演芸大会は恵子の乱入で、より盛り上がり見せる――。

やがて俘虜たちと恵子、酒を酌み交わし……万歳三唱の体で、

「乾杯 乾杯 乾杯！」

鉄扉が閉められる――消える俘虜たち。

一人取り残される瀬川……聞こえるのはポタリポタリと水の  
したたる音のみ……。

やがて鉄階段を叩く靴音がその「廃墟」に響き渡る。

一人の刑事がヤカンを手にして降りて来る……。

瀬川  
……

昭和二十一年八月十四日——ある所轄署の地下留置場。

降りてきたのは、捜査本部が置かれたこの所轄署に、本庁から出向してきた並木<sup>なみき</sup>。

瀬川、軍隊式の直立不動の姿勢で並木を迎える。

並木  
(手にしたヤカンの口からそのまま水を飲む) まずいことになつちま

つたよ

瀬川  
……

二日前 愛宕署<sup>あたじ</sup>で別の殺しで男が一人拳げられた 食い物世話してやると言つて女を誘い出し さんざん弄<sup>もてあそ</sup>んだあげく首締め回つたつて男

だ 今判ってるだけでも被害者は五人 そいつがなんと 上村殺しま  
でゲロしたっていうんだな 他所よそに先こされたってんで朝から上（捜  
査本部）じゃ怒鳴り合いよ

留置所の床は埃を立てないという理由から水が撒かれている。  
その黒く濁った水が「廃墟」を不気味に光らせている……。

並木

部長に言われた おまえの気持ちはわかるが 相手がゲロした以上ほ  
っとけない（口真似で）おまえの気持ちはわかるが わかるか？ な  
んでもいいからその出歯亀で決めろってことだ どうだ うれしいか  
？

瀬川

……

並木は煙草を取り出し口にくわえ、懐からジッポライターを  
取り出すと瀬川へと放り、火を灯つけるの体。

瀬川は並木の煙草に火を灯し、ジッポライターを並木に返す。  
（瀬川はそれが恵子のライターであることに気づいている）

並木の口から吐かれる紫煙しえんが「廢墟」を漂う……。

聞こえるのは、カチリカチリという、並木の手中で弄ばれる乾いたジツポの金属音だけ……。

並木 なんにも喋らねえんだな ん？

瀬川 (直立不動のまま)

そのゲロったって出歯亀がなんて言ってるか教えてやろうか？ そいつは他の女同様 食い物世話してやると言つて上村恵子をあの港に誘い出した 首を絞めなかったのは殺す気がなかったからで 変に思つた上村がいきなり騒ぎ立てたから海へ突き落とした 酒に酔つてた上村はそのまま溺死した どうだ瀬川 おまえが刑事ならこの話信じるか？ 旦那やみが闇でさんざん儲けてるってあの女が 食い物世話してやるだなんて馬鹿げた理由でついてもつたなんて話

瀬川 (直立不動のまま)

並木 聞いてんだよ 答えろ

瀬川 (兵隊が上官へ申告する体で) …… 知りません

突然、瀬川を蹴り上げる並木——「廃墟」の床をうごめく瀬川……。

瀬川 (直立不動に戻り) 知りません 自分はなにも知りません

並木 馬鹿のひとつおぼえみてえに知りません知りませんか？

瀬川 あの店は金がなくても飲ませてくれたんです 自分はその御厚意に甘えただけです

並木 (吸っていた煙草を床に踏みつけ) 上村って女はな あの界限じゃ金にうるさいことで有名だった そんな女がどうしておまえには金も取らずに酒を飲ませる

瀬川 ただ飲ませてくれたんです 自分は その御厚意に

並木 言つとくが こつちはおまえがなんかの拍子であの世に行っても別に困りやしねえ おまえはすでに戸籍上死んだ人間 つまりこの世には存在しない幽霊みたいなものだからな

瀬川 ……

瀬川へ暴行を加える並木——瀬川はなんとか身体を起こし、

ふたたび直立不動の姿勢……。

並木

敗戦国民は男は泥棒に 女は淫売に（当時言われた世評）巷にやゴロゴロ転がってんだろ 戦友の死に様を伝えに行ったら ついでにその未亡人とどうにかなつちまうなんて話

瀬川

自分とあの人はそんなじやありません

並木

おれはな おまえ見てるとなんか他人とは思えねえわけだ なんかわからんが おまえにはこう おれを引きつけるもんがある 嘘じやねえ だから長い付き合いをしたいわけよ 愛宕の出歯亀がなに言ってるか知らんがそんなことはおれには関係ねえ おれにはおまえしか見えてねえんだ

階段音……並木と組む所轄署の清水が降りてくる。

瀬川

（清水に）自分は殺ってません 本当です

清水は瀬川には一瞥もせず煙草に火……。

続く並木の瀬川への暴行——瀬川の悶絶と軋む鉄柵の音が地  
下の「廃墟」内に響く……。

並木

今日何日か知ってるか？ 八月十四日 上村が死んで何日たってる  
この暑さだ いくら霊安室とはいえそろそろ限界 いかげん成仏さ  
せてやりてえだろおまえだつて 思い出せ 八月九日の夜 あの女は  
どんな顔しておまえと逢った どんな顔しておまえを見た

瀬川

行つてません その日は行つてません

並木

おまえがいつも時ねぐらにしてる連中から裏はとつてる その日おまえは  
全身ずぶ濡れになつて帰つてきた

瀬川

： 雨が

並木

ん？

瀬川

雨が降つてたんです

並木

そう 雨だ ところがあの日 雨が降りだしたのは夜中だ 港の荷揚  
げ終つてすぐ時に戻つたんなら雨には濡れねえ じゃおまえはその雨  
が降るまで どこで なにをしたた

瀬川

飲んでたんです

並木 上村の店でな

瀨川 (清水へ) これは正式な取り調べなんですか (清水は応えず)

並木 趣味だ おれのな

並木の瀨川への暴行——やがて瀨川の動きは緩慢となり……  
直立不動も厳しくなっていく……。

並木 どうした 軍隊で鍛え上げられたおまえだ 警察のヤキ入れなんか屁  
でもねえだろ

瀨川 …… (直立不動)

並木 おまえは上村の店で飲んだ そうだな

瀨川 別の店です 別の店で飲んだんです

並木 (瀨川の頭を鷲掴み) おい 頭はまだ南方ボケか兵隊さんよオ!

瀨川 ——!

並木の手を払いのける瀨川——とつきに後ずさり防御の姿勢  
の瀨川……。

並木

いいじゃねえか その調子だよ そうこなくつちや

瀬川

本当です 本当に別の店で 彼女の店じゃありません

並木

じゃ金どうした ん？ おまえみたいな敗残兵にただで飲ませるなんて酔狂な店 上村の店以外この東京のどこ探したってねえだろ

瀬川

借りたんです

並木

誰に

瀬川

彼女の… ご主人に

並木

上村の旦那に遇ったのか

瀬川

彼女がそう言っつて貸してくれたんです

並木

ほら見ろ やっぱり行つたんだろ？ 上村の店に

瀬川

でも飲んでいません 飲んだのは別の店です

並木

…

瀬川

本当です 自分は別の店で飲んで 彼女の店じゃありません

並木

おまえ なんでそんなに飲みたかった ん？ 疇の連中に聞いても

瀬川

荷揚げが済んだらすぐに戻つて来るのがおまえの日課 なんでだ？

瀬川

… そういう 気分でした あの夜は

並木

気分？

瀬川 刑事さんにだつてあるでしょ そうした気分になるとき  
並木 ついでに女を海に突き落としたい気分にもなった  
瀬川 違います

並木、瀬川の鳩尾みぞおちを蹴りあげる――。

瀬川  
並木

――  
苦しいか？ おうい 苦しいか？（瀬川の襟首をつかみ）息出来ねえ  
だろ 女も同じだ 海の中で息出来なくて そうして死んだんだよ（  
そのまま床に叩きつける）

「廃墟」の床を這うように瀬川……すでに瀬川の顔面は夥し  
い血で染まつている……。

並木

いいか瀬川 たかだか飲み屋の女（が）一人殺されたってちっぽけな  
ヤマ 上にしてみりやホシと名の付く者さえ拳がれば中身なんか知っ  
たことじゃねえ だがな こつちはおまえと違って自尊心つてもんを

持ち合わせてる テメエを挙げずに万歳するなんて真似はおれのジソ  
ンシンが許さねえんだよ 生憎とおれは おまえみたいにアメちゃん  
の俘虜になつて 収容所でのうのうと「生きて虜囚の辱め」受けるだ  
なんて恥知らずはできねえタチでな

……

瀬川 なんか言えよ ん？

……。

並木 言えつての

別に

おまえが収容所でコンビーフ食らつてる時に 仲間はいりッピンの  
山の中で飢え死にしてみた おまえが収容所で演芸大会やって楽しん  
でる時 内地じゃアメちゃんの落とす爆弾の下でみんなして踊つてた  
んだよ それでも言うことねえか？

…… ありません

瀬川

瀬川 並木 瀬川 並木 瀬川

瀬川の鳩尾を再度蹴り込む並木。

激しくのたうつ瀬川。まるで水をかけられたミミズ……。

並木 おまえみてえなクズが生き残るなんてよ 本当死んだヤツはうかばれ

ねえな

清水が階段から下りてくる。

並木 (清水に) なんだよ

清水 伝言です とつとと愛宕署行つて出齒亀の物証固めろ 以上

並木 人にお願ひするときは直じかに言え

清水 それも私が伝言を(?)

並木 愛宕に本庁うちから行つてんの誰だ

清水 確か 佐藤さんとか

並木 : なにもかも最悪だ (階段を上つていく)

清水 話なら屋上で聞くそうですよ

階上に消えていく並木……。

清水、瀬川を一瞥するもやがて彼も階上へと消える。

一人、「廃墟」内に横臥したままの瀬川……。

下水道か……どこか遠くを流れる水の音……。

瀬川  
……

ふと一隅に感じる気配……見ると手帳に万年筆でなにやら書き付けている男……宮田少尉……聞こえて来る波音……。

瀬川  
――

いつの間にか、「廃墟」内には他にも数人の男たち。

外山  
テメエコノヤロウバカヤロウチクシヨウ（瀬川を殴りつける）

ふたたび床を激しくのたうつ瀬川――。

外山  
新入りが ふてえ（太い）真似してくれるぜ畜生

強い平行光線（収容所の監視檯やぐらから照らされている）が男たちを射る――。

外山の瀬川に対する暴行——軍隊のヤキ入れは警察のそれとは違う……。

谷村 外山  
外山 はい  
谷村 そんなら  
瀬川 (なんとか直立不動) …… 申し訳ありません

昭和二十年、七月——フィリッピン、レイテ島。

この時期、山ではまだ餓死と病気に苛まれながら多くの日本兵が血を流し続けていた。沖縄も陥落し、本土はB 29の爆撃により壊滅的打撃を受け、全土が「廃墟」化しつつあった。レイテ島の東海岸にある街から海岸線に沿って数キロ下がっ

た米軍の俘虜収容所内……夜。

外山

まったく素人が やんならもつとうまくやれつてんだバカヤロウが

俘虜は収容所へ入れられると、米軍制服一着とドタ靴（十一文以上）を支給される。衣服には上衣の背中に大きく、両袖全面にやや小さく、ズボンの尻に大きく、膝の上二寸にやや小さく、その都合六カ所に白ペンキで「PW」（PRISONER OF WARの略）の文字を書かされる。

ただ多くの俘虜は一日の大半を禪一つですごすのが普通で、俘虜としての完全軍装（上記衣服）になるのは、朝夕の点呼時ぐらい。それは「PW」を生き恥の印として考える俘虜たちのささやかな抵抗でもある。しかしここでは芝居の効果を考え、常時それらを着衣しているのが、望ましい。

谷村

（宮田に）宮田さんよお どうしてこうあんたの班の奴ばかり こう問題起こしてくれるんだらうなあ

宮田は応えず、万年筆で手帳になにやら書き続ける……。

外山

コノヤロウはな　なんとだぞ　二中隊の炊事場に忍び込んで缶詰盗もうとしやがったんだ　さんざん精神棒食らわされてるところをおれと小隊長でやつともらい下げてきた　テメエこの新入りの班長だろ　班長としての責任どうとるつもりだ　え？（手帳を取り上げ）聞いてんのかコノヤロウ

宮田

：（手帳を取り返し）すまん

外山

ヤロウ　すまんですむかコノヤロウ

宮田

（瀬川は）山から降りてきたばかりだ　いくら食ったって食い足りない

い　わかるだろおまえにも

外山

恥かかせたんだこの坊主はおれたちに　山じゃ小隊長やつてたんだろ

責任取れって言つてんだ　セ・キ・ニ・ン

この収容所は米軍兵制にならった中隊編成。ひとつの中隊は各五十名から成る四個小隊に分かれ、谷村は小隊長。

小隊は更に、各一二、三名から成る四個分隊に別れ、宮田や

外山はこの分隊長（以前の收容所慣例に沿い班長と普通は呼称）。

将校の俘虜は、別棟收容が原則のため收容所内の中隊長や小隊長の役職はかつての階級とは関係なく選ばれる。

小隊長（通常の部隊では少尉）の谷村は元軍曹、中隊長（大尉、中尉）は元曹長、大隊長（通常佐官クラス）に至っては元上等兵。

佐々木は中隊の炊事員。炊事員は中隊本部付きの役職で中隊全般の食事を管轄。この炊事員勢力をうまく巻き込むかで小隊の飯の量が決定するため、谷村はこれまで煙草などの嗜好品を流すなどし、炊事員たちの抱き込みに成功した。

今や谷村小隊は、中隊一景気がいいとされている。ただこれから貯蓄された物資は小隊内で公平に分けられることはない。ほとんどが小隊長である谷村の独占か、又は常に谷村の付度に忙しい外山の分隊が潤っている。

やがて俘虜使役（国際協定で決められた一日八時間労働に棒給を支払う「外業」<sup>がいぎょう</sup>）。シベリアのソ連軍と違い強制労働の類

ではなく、あくまで員数合わせの単純作業も行われると、  
棒給相当額の米軍酒保品しゅほも俘虜たちへと支給され、それが中  
隊同士の縄張り争いに更に拍車をかけていく。

谷村 こいつのしたことはわが第一中隊全体の問題だ

外山 そうだ

谷村 あそこの中隊長は山城扶桑組やましろうふそうの生き残り 相当うるせえ

外山 人んちの炊事場に忍び込むなんてあ まるで宣戦布告なんだよこいつ  
のしたことは

谷村 外山（黙れ）

外山 ……

谷村 そりゃヤルとなつたら徹底的にやる 陸軍の意地にかけて海軍には負  
けられん ところが今は例の四中隊の脱走騒ぎでヤンキーはピリピリ  
だ あんたんとこのトロクサイ奴のおかげでこのまま二中隊と騒ぎを  
起こし こっちまで強制労働なんてごめんだからな

収容所内では近頃脱走事件があり、米軍の厚遇が引き締めら

れた。食事の制限、柵の強化、監視兵の増員、煙草等嗜好品の配給停止などだが、一度飽食を知った俘虜にとってこの懲罰は相当に答えている。自然、関係ないのに責任の類が及んだ彼等別中隊は、やり場のない怒りを持ってあましていた。

外山 四中隊の飛行機乗りがどこ連れてかれたか知ってるか？ テキサスつて山の中で穴掘りの毎日だ畜生

谷村 トヤマ

外山 だって全然聞いてやしねえ 端から馬鹿にしてんだおれたちのこと（宮田に）いつまで将校気分でいやがんだテメエは！

谷村 黙ってる

外山はメンコを重ねた古参兵で元上等兵。

宮田 谷村さん じゃおれも言わせてもらおうが 元はと言えばあんたが各分隊に平等に食い物を分けてくれればそいつ（瀬川）だって腹をすかせることもなかった 違うか

佐々木

四中隊の脱走騒ぎで食事は半分 自分ら炊事の者がどれだけ苦労しているか君は知ってて言ってるのか

佐々木は学徒兵出身。幹候の試験をパス出来なかった学徒兵の中には、軍隊生活を経て強烈なニヒリストへと変貌する例もめずらしくない。

外山

そうだ 苦しいのはみんな同じだバカヤロウ

宮田

現に不平等は行われてる こっちは一善の半分 なのにおまえのところは二膳ある おまけに食後のデザートだ

外山

なんだデザートって

宮田

デザートはデザートだ

外山

ありゃバナナだバカヤロウ

宮田

それをデザートって言うんだ

外山

バナナだ

佐々木

君の部下は中隊に恥をかかせた それをハッキリと認め 責任を取つたらどうなんです

外山 テンプラ少尉さんは責任の取り方も知らねえってか？  
宮田 俘虜に責任もクソもあるのか？

間。

外山 …… テメエ コノヤロウバカヤロウ畜生が！

宮田さん そういう言い方は卑怯だと思いがね

……

谷村 あんたはついこの前まで 病棟で横になってた人だから仕方ないかも  
しれんが ここにもここでちゃんとした秩序つてもんがある 確かに  
おれたちはやむなく俘虜になっちまった だが日本はまだ敗けちやい  
ない 日本が敗けてない以上 たとえアメリカの世話になっただけよ  
うとおれたちは日本の軍人だ

外山 そうだ そのうち友軍の大反撃が始まる そうすればこんなもん（服  
）ともおさらばなんだ畜生が

宮田 沖繩が陥ちた以上この戦争はしまいさ わかるだらいくらおまえらで  
もそんなことは

外山 沖繩がなんだ 本土決戦だつてある 本土で敗けても満州がある 神州は不滅なんだバカヤロウ

宮田 もしもそうなりやおまえはしまいだ 一応国じゃお国のために死んだ軍神 それが起こるであろうに俘虜になつて生きていた 軍がそんなおまえを生かしておくと思うか

外山 この頃はどこも兵隊不足で 俘虜になつて戻つても二三年満州で強制労働したら許されんだよ (谷村に) ね

宮田 そんな気概があるなら今すぐ四中隊同様脱走しろ 山にはまだ友軍がウヨウヨいる おまえにもう一度 山に還れる勇気があればの話だが

佐々木が宮田を殴りつける——マラリアで身体が弱っている

宮田は簡単に「廃墟」内に横臥してしまふ……。

佐々木 (皆に) こいつみたいなの大学生あがりか将校です 友軍も苦しいはずですよ (谷村に) 言つとくが学徒上がりがみんなこれだなんて思わな

いでください とにかくその缶詰泥棒は二三日吊しておいた方がいい

二中隊の手前もありますから

佐々木、去る……。

外山 本部付きだと思いやがって（谷村に）ね（同調を求めるように）

ソロモン海域周辺での押し合いの頃と違い、フィリッピン戦のような決定的敗軍から成るこのレイテ俘虜収容所の中では、本気で日本の勝利を信じている俘虜は一般にはいない。ただ、そう口にしないと、今も尚、山中で飢えと病気で苦しみながら戦う友軍に対し、自分の「卑怯」を隠匿する術がない。

谷村 （宮田へ）明日の外業はあんたの分隊から出せ 人選はまかせる こ

れはおれの思いやりだ

外山 這いつくばって感謝したって足りねえぞテメエ わかつてんのか？

谷村 こっちは病<sup>や</sup>み上がりのテメエ外業出させるなんてワケねえんだからな  
決まったら明日の朝一番で報告だ

……

外山 復唱！

宮田 ……

谷村、去っていく……。

外山 (瀬川を一隅へと連れ) なんか持つてんならまずはおれんとこだ 小

隊長には内緒だ いいな

外山、去る……。

瀬川 (宮田の前に直立不動の姿勢) 申し訳ありません

宮田 せいぜい怨め オレみたいな班長持ったことをな

瀬川 外業は自分が行きます 自分に責任を取らせて下さい

宮田 外業はおれが行く

瀬川 ダメです 自分が責任を

宮田 下手に動くと腹が減る おまえはまず山の疲れを取るのが先決だ

……

宮田 いいから座れ そんなふうじゃ肩が凝る

座る瀬川……尻が割れるように痛い……。

宮田 効いたか 海軍の精神棒は

瀬川 はい

宮田 でもあれ食らって気絶しなかったのはたいしたもんだ 山じゃ随分毆

られたくちだな

瀬川 ……

山での出来事は基本喋らない……が俘虜全体に言える傾向。

宮田 おまえ 女房はいるか

瀬川 は？

宮田 きれいか

瀬川 ……は

宮田 別れの夜は燃えたな

瀬川 は

宮田 このやろう とたんに元気になりやがった

瀬川 申し訳ありません  
宮田 見たいか  
瀬川 はい？  
宮田 おれの女房だ  
瀬川 … はい 見たいです

宮田、手帳の中から写真を取り出し、瀬川に。

宮田 きれいか  
瀬川 はい  
宮田 おまえのとどつちがきれいだ  
瀬川 ○△□※（意味不明）  
（写真を手帳にしまい）困ったことがあつたら遠慮なく言え  
やおれがおまえの責任者らしいから  
ここに

宮田、万年筆を瀬川に差し出す。

瀬川 … はい？

宮田 外山にくれてやれ 新入りはなにか貢がないとあとが辛い

瀬川 ダメです これ以上ご迷惑は

宮田 おれにはもう必要ない（瀬川の手握らせる） どうせ貫い物だ 気にすんな

瀬川 ありがとうございます 御恩は一生忘れません

宮田 大袈裟なやつだ（自分の場所に戻ろうと）

瀬川 あの …

宮田 なんだ

瀬川 どうなるんでしょう 我々はこれから

やや間……「廃墟」内に俘虜たちがそれぞれ見えてくる……。

宮田 昼間になるとな 時々 この上を飛行機が飛んでいくのが見える も

ちろん友軍の飛行機じゃない あの飛行機が積んでる爆弾で また山の友軍は傷つく でもオレたちどうすることも出来ん ただ口を開けて見上げるだけだ 四中隊で脱走騒ぎあったって言ってたろ 脱走し

瀨川 宮田 瀨川 宮田 瀨川 宮田 瀨川 宮田 瀨川 宮田

たのはみんな 海軍の飛行機乗りさ

… その人たちは

(手を拳銃の形に構える)

…

これだけはおぼえとけ うまく柵を越えても周りは海 オレたちはど

こにも行けやしない

でも もしも日本が敗ければ

(瀨川を見る)

… すみません

瀨川

すみません

おまえはなんで万歳した 捕まったのか それとも自分から進んでか

…

(瀨川に歩み寄り) どっちしろだ ここじゃおれみたいに階級偽つて  
る奴も多いが 名前だつてみんな怪しい 万が一国に知れば戦死の  
一時賜金しきんや年金がおりんのはもちろん 下手すりゃ村八分だ 家の者  
が迷惑する

瀬川 ……

宮田 気をつけろ。ここじゃ正直者が馬鹿を見る。オレだって一応宮田と名

乗ってはいるが、もしかしたらとんでもない悪党かもしれない（笑）  
う）ま、あまりこん詰めて考えんことだ。そのうちここで生きていくのも慣れて来る。

谷村、外山、佐々木が現れる……波音高く……。

宮田は手帳を手に自分の場所へ。

瀬川は俘虜たちに両手を縛られ、吊り上げられる……。

監視櫓の反射燈が俘虜を浮かばせる——。

山元 「生きていた英霊」か

灼熱の捜査本部……捜査員は愛宕署へ出払い、部屋は閑散。

山元

（新聞を清水に示し）うまいこと言うもんだね　しかし軍が俘虜になるのを禁止してたわりには意外と多ね瀬川みたいな連中は

新聞片手にアイスクャンデーをなめるこの男は、本庁から  
出向し捜査本部を取り仕切る山元（狸の異名）。

清水

（応えず、傍らのヤカンを傾け、飲む）

山元

考えてみればだよ　誰も好きこのんで死にたくはなし　勝てば官軍

結局馬鹿を見たのは負け戦で死んだ人間だね

清水

（飲む）

扇風機は調子が悪いのか、おぎなりにしか回転しない……。

首筋を流れる汗をぬぐいながらシャツの襟元を嗅ぐ山元。

山元

まだ落ちないよ 安香水 来るときの電車で横にいた女がもうすぐく  
てね どういうんだろうね近頃のああいうのは まさに国辱だよ 田  
舎の女郎みたいな顔してるくせに似合わない洋服なんか着て そのく  
せまるでぼくが変な下心あるんじゃないって目で睨みつけてくる 日  
本の女も安っぽくなった 大和撫子やまとなでしこ 滅びけりだ

清水、机上に調書を放り投げる。

清水

瀬川はシロです（机上の調書を示し）愛宕で挙げられた出歯亀の供述  
書 殺人に至った心理的経緯 動機 時間的経過 実行の細部 自白  
に至った過程 どれも完璧です 供述調書の模範ですよ  
じゃ君がそう並木に言ったら？ 直に

……

山元

（新聞を清水に示し）芋の取り合いで弟が実の兄貴を殺したってき  
どう思う？ 君と変わらん年だよ

清水

時間の無駄です 自分がやったという人間がいるんですからさつきと  
ケリをつけちゃあいい

山元 まあそうこん詰めんでさ 長いことこの仕事やっているとこういうこと

もたまにはある 休暇だと思えばいいよ休暇

清水 生憎そこまで悟りきるには歳老いてないもんですから

山元 これは年齢の問題じゃないよ 要領の問題 だってね君 出歯亀にし

ろ瀬川にしろ 自白がとれたって今のままじゃこのヤマはどうにもな

らんよ ぼくが検事なら一発で門前払い 下手すりゃ証拠なしでお宮

だ

清水 裁判のことまで考えてたら今の警察はパンクです

山元 それ 本気で言ってるの？

留置場に降りていく並木の姿が「廃墟」内に見える……。

同じくそこには捕縛され、吊し上げられた瀬川……。

清水 まんざらデマカセじゃないですな並木さんのアレも

山元 ……

清水 妹さんですよ 服毒自殺した

同じく「廃墟」内の一隅に、挺身隊の服装に身を包んだ女も  
見えて来る……。

清水 愛する妹はバリバリの挺身隊員 かたや万歳した恥知らずの俘虜 そ

りや個人的にはいろいろあるんでしょうけど

山元 清水くん 組んだ同僚の身辺洗うなんておだやかじゃないよ

ここの者はみんな知ってますよ 有名な話ですから

山元 あいつはただでさえ敵が多いの だから口の悪い連中が追い落としを

かけてくだらん噂流してるだけ カストリ雑誌の読み過ぎだよ（湯飲

みを清水に差し出し水をくれという体）

現に奥さんも田舎に疎開したまま もう二年も戻らない

山元 （飲んで咽せる…清水を見る）景気がいいね随分と

上村の旦那が持つてきたんですよ

山元 … あの男ね

清水 本庁の警部殿にメチルなんて飲ませやしません 眼なんか潰れやしま

せんからどうかご安心を

山元は窓際へと立ち、窓外に広がる焦土を見つめる風……。留置場内では、ジッポライターの音色を奏でる並木……。

山元

並木の妹が死んだのが去年の八月十五日　つまり明日だ　おまけにこ  
うカンカン照りが続いたんじゃないやでも一年前を思い出す（新たにヤ  
カンの密造ウイスキーを注ぐ）

清水

いいんですか　きついですよ　そいつは

山元

ケチケチしなさんな　どうせいくらだつて手に入るんだろ？（飲む）

清水

そういう気分になる時だつてあるんだよ　奴だつて人間なんだから  
どんな気分です

山元

ない？　そういうの　単に運がいい悪いだけじゃあの満州からは還つて  
は来れないでしょ　君だつて

清水

どつちにしろ　気分だとぼつちりはごめんです　軍隊で嫌つてほど味

わいましたからねそういうのは

清水、出て行く。

山元 ……なるほど  
並木 なんて上村は死んだ？

並木と、吊されている瀬川……。

並木 自殺するほど殊勝な女か？ そんなことはおまえもよく知ってる だ  
瀬川 あの子は自分で息の根をとめたんじゃない 誰かにとめられた  
並木 動機はなんです  
瀬川 ……  
瀬川 わたしが 彼女を殺さなくちゃならない動機です

ジッポライターを灯し、煙草を吸い始める並木……。  
「廃墟」内を木の棒を杖代わりにして歩く宮田の姿が見えて  
くる……。

並木 十九年の夏 上村はある陸軍少尉と結婚した 秋になってその陸軍少  
尉はフィリッピンのレイテ戦に投入され 部隊は全滅

同じく「廃墟」内に、蒸し風呂状態の店内で麦酒<sup>ビール</sup>を飲む恵子の姿が見えてくる……。

並木

年が明けて早々 戦死の通知を受け取った上村は なんとあっさりその陸軍少尉の家を出て 春には近くの農家に嫁いだ だがその二度目の亭主も戦地へ送られ夏には戦死 敗戦の混乱もあつてしばらく実家でおとなしくしてたが 今の旦那とねんごろになつてからは悠々自適の戦後成金の仲間入り ところが戦死した事になつていたその陸軍少尉は 実はフライリッピンで俘虜になつて生きていた おまえはその陸軍少尉をよく知つてるはずだ

……

瀬川  
並木

宮田はいつの日か日本に還り 女房の上村に逢える日を夢見ながら恥を忍んで生き延びたのに そのころ当の上村といえは男を取つ替え引つ替え好き放題の女王気分 同じだ 上村恵子は同じだなんだよ

煙草を踏みつけ並木、瀬川の襟首をつかみ上げ自分の側へ。

腕のねじれ苦痛に耐える瀬川と並木の対峙……。

並木 いい女だな おまえの女房 いや 女房だつたと言うべきか？

……

並木 どうした 急にダンマリか？

瀨川 遭つたんですか あいつに

並木 きれいな着物着てたよ この頃の百姓は随分景気がいいとは聞いてたが あの着物だつてどうせ芋や野菜と交換に金持ちからふんだくつたもんだろうがこいつがまたよく似合つてる 腰のあたりの肉付きなんか最高でな

瀨川 やめてください

並木 兄貴が死んだらその女房 弟の嫁にして家を継がせるなんてことはあいつた百姓家じゃよくある話だ 兄さんはお国のために勇敢に戦つた 戦死の一時金もあり 村長からは英雄を出した家つてなもんで万歳三唱 嫁は弟に嫁がせりやたとえお国は敗けたといつてもお家は安泰 さあこれから明日へ向かつてまっしぐらつてな時にとんでもねえ幽霊が還ってきた

瀨川 やめてください

並木 手前が動機がどうこうなんて言い出すからおれがそいつを教えてやつ

てんだ 思い出せ おまえは国の女房に逢いたい一心で 恥を忍んで  
万歳した なのにやつと還つてみりやあ戸主こしゅの座には弟が座り かつ  
て出征の夜 布団を涙で濡らしたその女房は その弟の膝元であんた  
誰だつてな顔してけんもほろろ おまえは還つてきちやいけねえ人間  
だつたんだ

やめてください！

そりやそうだ これから新しい生活はじめようつて未来夢見る人間に  
とつて おまえみたいな過去の遺物とはきつぱりおさらばしねえこと  
には一歩も前には進めねえ

やめろ！

おまえは誰のために還つてきた？ あの地獄のフライリッピンから誰の  
ために 万歳してまで！

やめろ！

おまえの為に泣いた女だ 一生あなたを待ってます 三つ指ついてお  
まえを送り出した女 死ぬだろ普通 夫が死んだら女房みさおは操たてて死  
ぬんだ普通 それが日本の女だろ でもおまえの女房はそうしなかつ  
た たつた半年 たつた半年で他の男に股ア開きやがった こつちが

瀬川 並木  
瀬川 並木  
瀬川 並木

どんな想いで戦争してたかも知らねえで 弟のチンポくわえ込む方選んだんだよ そして上村恵子も どうだ 思い出したか!?

瀬川

おれは殺つてない 殺つたのはおれじゃない!

並木

不潔で 醜悪で 腐りきった牝犬 気のあつた男とみればしつぽ振つて誰彼かまわず股ア開きやがる淫売 おまえはそんな墮落が許せなかつた そんな連中が のうのうと生き抜いて肥え太っているのが だつてそうだ これじゃあ死んだ班長殿が浮かばれねえ

瀬川

嘘だ!

監視櫓の反射燈が瀬川を射る。

外山

テメエコノヤロウチクシヨウバカヤロウ!

外山、瀬川を殴りつける。

遠く聞こえる波音……捕縛ほぼくされている瀬川、宮田、谷村、外山、佐々木……。

外山 (缶詰を手に宮田に) 見ろ これが証拠だ

宮田 ……

外山 見ろってんだよ！

外山が瀬川の上着を開くと、数個の缶詰が瀬川の懐から床に転がり落ちる……。

瀬川 (宮田に) こいつらの言うことは全部です 食糧に不足してるというのも全部 この缶詰が証拠です

外山 こいつ(缶詰)はな いざという時の為のもなんだよ いつの日かここを解放する友軍の為に大事に貯蔵してあったんだよ それをテメ

エはな

瀬川 嘘だ オレは知ってる おまえらはこの缶詰を餌に 他中隊から煙草や酒を手に入れてた なにが友軍だ 考えてるのは自分たちのことばかりだ

谷村 瀬川 食い物に困った奴らに食い物をやる その見返りに おれたちは煙草をもらう これはれっきとした取引だ

外山 そうだ！

瀬川 谷村さん あんた知ってるか 外山はあんたに内緒でかき集めた万年筆や時計でサージャントから麦酒まで手に入れてる あんたに内緒で  
外山 …（谷村に）ウソだ 麦酒なんて国を出てから一滴だって飲んじゃいねえ

瀬川 じゃおれが見たあれはなんだ テメエの分隊じゃシヨンベン瓶に入れて貯め込んでんのか

外山の瀬川への暴行――。

宮田 （外山を瀬川から引き剥がす）

外山 なんだアテメエ!? デコデコになるまでツキ上げられてえか あ!

宮田 谷村さん 貯めこんでる食糧を今すぐここに出してくれ それを各分

隊に平等に配分する そうすりやすべては解決だ (外山に) もちろん

んおまえの麦酒もな

外山 テメエ まだ言うか!

外山、宮田へ暴行――。

瀬川 やめろ! (連呼)

続く外山の暴行――やがて床に横臥し動かなくなる宮田。

反射燈に浮かぶ俘虜たち……。

外山 (谷村に) 全部嘘だ 麦酒なんか飲んじやいねえよ 国を出てから一

滴だつて

……

外山 谷村  
本当だ

谷村 瀬川 オレも同じ気分だ 軍人としてじゃねえ 人間としてだ  
外山 本当だよ

谷村 他中隊の炊事場にもぐり込むならいざ知らず 今度は身内荒らし オ  
レは一体誰を信用したらいい(？)

瀬川 オレはただ 自分は宮田さんに食べてもらいたくて

外山 (笑う) 班長さん想いだこと ああ泣けるねえ

瀬川 あんたらがよこす食糧じゃとうてい保たない も せめて宮田さんにだけ  
でも

谷村 瀬川 オレはアカは好きじゃねえ 根っからの自由主義者だ 言った

ろ 今以上の食い物が欲しいなら 取引することだ

瀬川 ； ならせめて せめて外業から外はずしてください 宮田さんは熱があ  
る

外山 こいつは手前で行きたいって言ったんだよ

瀬川 谷村さん あなたの口から米軍に言やあわけない筈だ お願いです

このままじゃ本当に死んでしまう

外山 マラリアがなんだ んなもんは病気に入らねえ 死ぬヤツは勝手に死  
ぬんだ

瀬川 おまえらそれでも人間か（！）

外山 ——（鳩尾を蹴り上げる）

瀬川 ——（息ができない）

外山 突撃精神だ突撃精神 手前も兵隊だろ（横臥する宮田を示し）こいつら将校は山でなにした 忘れたか 熱があつて動けねえ兵隊殴りつけ無理矢理突撃させたの誰だ？ 餓死寸前のオレたちを日本刀で追いかけて回したのは誰だ？ それをこいつら 俘虜になつたとたん軍人じゃねえつてな面しやがつて 日本は負けだなんて平氣な顔してぬかしやがる どっちが人間だ!?

瀬川 宮田さんはそんな人じゃない

佐々木 君は騙されてる 君はこいつの正体知らない こいつは山でぼくらの小隊長だった だから山でこいつがなにをしたか それはぼくが一番よく知ってる こいつがどうして俘虜になつたかもよく

間。

宮田 トミタ

佐々木  
宮田

(谷村に) そうです 信用するにあたらない人間なんですこいつは  
おとしめるだけだぞ自分を それ以上言うよ

佐々木、宮田の口を封じようと暴力――。

間……反射燈に浮かぶ俘虜たち……。

佐々木

(俘虜たちに) あるとき 小隊は傷病兵含め 全部で十人足らずにな  
つてた 本隊がどこにいるのかもわからない 完全に孤立 このまま  
じゃ全員飢え死に その時こいつは言った 軍は俘虜を許さない こ  
れより最期の突撃を敢行する おれと行動を共にする者は前へ出る！  
(笑う) こいつはイライラしてた 普段からみんな見習士官なんて心  
の中じゃ馬鹿にしきってたからね こいつは言った それでも貴様ら  
日本人か 少しでも動けるなら突撃して死ぬ気にはなれんのか 結局  
志願したのはぼくだけだった そうしてぼくは山を降りた こいつと  
一緒に 米軍陣地を前に ぼくはこいつの突撃命令を待った もちろん  
ん死ぬ覚悟はできてた なのにこいつは動かなかつた 突撃するなら  
夜しかないのに そのうち空が明けてきた でもこいつは動かない

ぼくはそこではじめて気づいたんだ 最初から死ぬ気なんかなかった  
最初から突撃なんてする気なんかこいつには こいつは端から手を  
挙げるつもりで ぼくを道連れにしたんだ 山に残った連中(を)卑  
怯者呼ばわりしてたのは 後でそいつらが万が一友軍に救出されるこ  
とを考えての芝居だった たいした小隊長さ 自分が助かりたい一心  
で部下を見捨てる それも死ぬ覚悟のぼくまで道連れ それもこれも  
国のワイフに逢いたい一心

佐々木、宮田の懐から手帳を出し、挟み込んであった写真を  
谷村に。

佐々木 この女に逢いたい一心で

谷村 …… (写真を取り) 見たいか外山

外山 はい 見たいです

谷村 (外山に見せる) おまえの女房とどっちがきれいだ

外山 ○△□※ (意味不明)

宮田、写真を取り返そうと谷村へ——外山がそれを制する。  
倒れ込んだ宮田に、手帳と写真を投げつける谷村。

佐々木 谷村さん こいつの病気も嘘つぱちかもしれない 結構力があるから

ね

谷村 (佐々木の胸倉をつかみ) おい 調子に乗んじゃねえぞ学徒兵 本部  
付きの炊事員だからってな (佐々木を突き飛ばす)

外山 (笑う)

谷村、突然外山を、デコデコにつきあげる。——。  
床を這うように外山……。

谷村 瀬川 おまえは今日から班長だ こいつら (外山・宮田) の上官だ

外山 違う 麦酒の話はこいつの嘘だ

谷村 外山 (瀬川を示し) 班長殿の言うことをよく聞いて 便所掃除から  
出直せ

外山 勘弁してくれ この通りだ

谷村 いいな瀬川

……

谷村 考えろ 宮田の身体が心配なら 班長のおまえが出さねえって決めれりやそれで足りる それだけじゃねえ オレに付けば缶詰だって好き なだけ食える もちろんタダじゃねえ わかるな 取引だ

瀬川 …… なにもない おれがおまえにやれるものなんてなにも

谷村 おまえ 古屋って兵隊知ってるな そいつが昨日病棟に収容されてきた

……

谷村 (笑う) おまえのことよく知ってたぞ おまえ 山じゃ随分有名人だったそうじゃねえか

瀬川 …… (捕縛された縄を取ろうと暴れる)

谷村 水臭え そういう特技があんなら最初からおれに言ってくればいいのかによオ (暴れる瀬川を抑えつける)

瀬川 お願いです

谷村 なんだよ こいつ (宮田) にもうくれちまったか?

瀬川 (谷村の顔に唾)

谷村 (外山と佐々木に) 抑えろ (瀬川を)

(おさえる)

瀬川 やめろ!

谷村 佐々木

佐々木と外山が暴れる瀬川を抑え込む。谷村は腰の手ぬぐいで叫び続ける瀬川の口に猿轡状態。

谷村 外山

はい (尚も強く瀬川を抑える)

谷村 バカ ケツをこつちに向けんだよ

∴ はい (そうする)

瀬川 ○△□※! (意味不明)

爺さんの部隊長相手じゃおまえも物足りなかつたらうがもう安心だ  
おれのはまだまだ現役だからな おまえらもよく見とけ

谷村は瀬川のズボンをずりおろす——瀬川の白い尻が露出。

瀬川  
——！

猿轡のために瀬川の悲鳴は不気味な音声となって夜の収容所  
内に響く——。

清水  
無理なものは無理です

灼熱の捜査本部、会議室……力なく回る扇風機。

清水  
並木

理由のない者をこれ以上拘留しておくのは無理です  
理由はある あいつは殺してる

山元は二人の言い合いをよそに新聞に目を通してている。

清水

たとえ吐いても物証どころか被害者の上村には暴行された形跡も 扼

並木

殺の跡すらない これはどう殺しだと立証するんです  
物証なんてどうとでもなる 何年刑事やつてる

清水

： 本気ですか

並木

別に潰れやしねえよ警察は

清水

並木さん 生き恥を曝してるのは瀬川じゃない あんただ

並木

……

並木、清水を殴る。清水も応酬——騒然——。  
やがて並木は劣勢となり……並木は床に横臥……。

山元 (清水に) 氣いすんだか

清水 (ヤカンのカストリを飲む)

山元 言うこときかせたいなら瀬川がシロだつて証拠持つて来るんだな 殿  
り合いでケリつけんのは軍隊で沢山だろ君だつて

清水 : そうさせていただきます 本庁殿から単独行動のお許しも出たの  
で

……

山元 (出て行く)

強い西日……扇風機が力なく……。

山元はヤカンを並木の元に……。

山元 上村の旦那が差し入れ 余程いい米使つてるのか この種のものにし  
ては意外といける

並木  
山元

……

(ヤカンを並木に) 意外と効いたろ 彼のは関東軍仕込みだからね

山元、上村のジッポで煙草を吸う……。

山元  
並木  
山元  
並木

正直なところ どうなんだい瀬川  
殺やつてます

ネタはあんの(?)

… なものはありません

力なく回る扇風機……。

山元  
並木  
山元  
並木  
山元

とりあえず休んだらどう この件以来もう随分と寝てない  
……

明日は命日なんだし 潤子ちゃんの

別になにもしません

しようがしまいが命日なんだし

山元、窓外の夕日で赤く染まる廃墟をながめる風……。

山元

奥さん つかケリつけなきやだろうけど あまりこん詰めて考えてもね 家<sup>うち</sup>なんかでもそうだけど たまに愛とか恋とか真面目に言い合  
うと神経に答える

並木

(笑う) あんたが言うわけ 愛とか恋とか

山元

そりゃたまには言わんとさ こんな商売してんだし 男と女はお互い  
馬鹿の振りしてんのが一番うまくいくん 女はそこをわかつてくれな  
い 人間たまには万歳もしないと身動きできなくなるのにな

挺身隊の女が、ゆつくりと並木に……夕暮れの蝉……。

山元

……

山元、去って行く……夕暮れに染まる並木と潤子……。

潤子

なに考えてるの？

並木 … (上体を起こし) それを考えてる  
潤子 … 昼間のラジオ 聞いた? みんな泣いてた  
並木 おまえは (泣かなかったのか?)  
潤子 … 他にも沢山あるから 泣きたくなること  
並木 …

潤子、並木の元にあるヤカンを手に取り、アルマイトのコップに注ぐ……。

潤子 …… (それを飲み干す)  
並木 大丈夫か そいつは相当きついだぞ  
潤子 (コップを差し出す) … 兄さんは? 飲まないの?  
並木 ……

潤子、突然並木に抱きつく——アルマイトのコップが床を蹴る——。

潤子 あたし 秘密のない人生って すごくうらやましいって思う  
並木 …… 潤子

船笛——二人……動かない。  
吊り下げられた瀬川の縄が解かれる……。

瀬川 ……

やがて船笛は幾重にも重なっていく——。

フリリッピン——昭和二十年八月十日——夜。  
遠く、船笛群……時折放たれる曳光弾……。

外山　　： 畜生！ なにがワー・イズ・オーバーだ

佐々木　ポツダム宣言を受け入れてもいい　そう言っただけさ　決まったわけ  
じゃない

外山　　だから？　だから敗けたんでしょ？

佐々木　政府は国体護持を条件に出してる　受け入れられなければ戦争はまだ  
まだ続く

外山　　当然ですよ　天皇陛下さまのいねえ日本なんて日本じゃねえですから  
だから終わらないって言ってるんだ

佐々木　でも聞きましたでしょ？　昨日は長崎　広島と同じです　あんなもん  
外山　　これから何発何発も落とされてみてくださいよ　日本は本当になくな  
つちまうですよ

佐々木 どっちだ 終わってほしいのか 続いてほしいのか

外山 … 知ったこっちゃねえですよ 頭のいい人たちがなんとかしてくれ

ます そのために大隊本部に呼ばれてんですから

佐々木 (外山をジッと見る)

外山 なわけねえでしょ！ 日本が敗けて喜ぶチクショウがどこにいます？

あんまりなめちやいけねえですよ！

ここにいるさ 今オレの目の前に

……

佐々木 頭ん中はハワイの金髪女でいつぱいか？

外山 自分はこれでも食ってんですよ 山で食ってんですから自分は あま

りなめちやいけませんよ 味を知ってんですからこっちは 人間の

あんまりなめるとあれですよ

佐々木 ああ！ 食えるもんなら食ってくれ！

外山 おお食ってやるですよ！

谷村 よせ

谷村と瀬川班長……。

外山 (直立不動) 小隊長殿 ご苦勞様です 班長殿 ご苦勞さまです

谷村 還れるもんも還れなくなるぞ つまんねえ騒ぎ起こすと

外山 : それはつまり やはり敗けでありますか?

谷村 うれしいか?

外山 ○△□※(意味不明)

谷村 (紙片取り出し)一つ 確報あるまで軽拳妄動を慎むこと 一つ 団

体行動は嚴重に戒むいまし 一つ 自殺すべからず 昭和二十年八月十日

レイテ島パロ收容所大隊本部 以上

谷村、紙片を破り捨てる。

外山 あの… どっちなんです 要するに

谷村 おれたちはもう軍人じゃない 正真正銘の囚人だ 生かすも殺すもア

メリカさんの胸算用ひとつ

外山 決まりつてことですか?

佐々木 政府はポツダム宣言受諾用意アリと言っただけです

谷村 本部じゃ十中八九決まりの判断だ

外山 あのだい、いつごろあれでるんですかね。その日本には

佐々木 だからどの面さげて還るんだ。ぼくらは俘虜だ。

外山 馬鹿言っちゃ困りますよ。還つちまえば誰が俘虜かなんてわかりやしないえでしょ。(衣服のPWを示し)別に印がついてるわけじゃねえんだから。(谷村に)ね

佐々木 おまえにだつて親兄弟ぐらいいるだろ

外山 当たり前ですよ。さつきから人なんだと思つてやがるんですか

佐々木 なんて言う。向こうは死んだと思つてる

外山 だつたら死にやあいいでしょ。とつとこの場で

谷村 (佐々木の胸ぐらをつかみ)いいか。テメエ勝手に死ぬのはかまわん

だがこつちまでとぼつちりはごめんだ。絶対に

佐々木 ……

佐々木、谷村を引き払い去つて行く……。

遠く歓声が聞こえる……それは柵を隔てた台湾人地区からの

声……木を叩く音、ブリキを叩く音なども聞こえる……。

外山 かわいそうによ 知らねえんだろうな山の連中 敗けたこと

谷村 外山

外山 はい

谷村 目え離すな 佐々木から

外山 もちろんであります

外山、去って行く……。

瀬川 実際どうなんです 本当に敗けるんでしょうか

谷村 国体護持なんでもっともらしい理屈言っても お偉方の中にはテメエ

助かりたい一心から一億玉碎(を)なんてこともある 人間の保身は

甘くみん方がいいからな

……

谷村 処刑されんだろ 戦争犯罪人で ドイツみてえに

瀬川 自分は信じたいです そこまで人間は愚かじゃないと

谷村 だったらこんな戦争はじめたか？

瀬川 ……

谷村

あとは政府の出方次第　こつちがもしももしもなんてことをこん詰めて考えたってしょうがねえ　とにかく今は騒ぎを起こさねえことさ（尻を叩く）頼んだぜ　班長どの

船笛が長く――外山、谷村、佐々木、それぞれ……。

瀬川が宮田の元へ……。

瀬川

宮田さん

……（動かず）

瀬川

宮田さん？

宮田

聞こえてる

瀬川

大丈夫ですか？

宮田

なんだ

瀬川

宮田さんが言った通りです　還れるんです日本に　出られるんですここから

宮田

……

瀬川

（万年筆を差し出す）これをどうぞ　なかなかいいの見つからなくて

この頃の新人りは山が長いせいとか口クなもん持ってません　どうか  
これで奥さんにお手紙を

いいかげんにしろ

……　はい？

（立ち上がる）日本が万歳したのがそんなにうれしいのか貴様！

瀬川 ……

遠く聞こえる勝利者達の歓声……。

宮田、その場に跪く……その肩が震えはじめる……。

瀬川 ……　宮田さん？　宮田さん！

宮田は瀬川を払う——肩の震えが慟哭へと変わっていく……。

瀬川 ……

聞こえて来る戦吟……。

朕深ク世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ 非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ収拾セムト欲シ 茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク 朕ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ対シ 其ノ共同宣言ヲ受託スル旨通告セシメタリ……

谷村、外山、佐々木、俘虜服を脱いでいく……。

宮田は手記を書き始める……。

抑々帝国臣民ノ康寧ヲ図リ 万邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ 皇祖皇宗ノ遺範ニシテ 朕ノ拳々措カサル所曩ニ……

恵子

おかえり

夕闇に鳴く蝸ひぐらしの群……。

いつ還ったの？

……

(瀬川の手を取り) 入いんなさいよ なところ突つ立ってないでサ

まだやってないんじゃない (お店)

だからいいんじゃない ほら

瀬川を店内に引き入れる恵子。力無く回る扇風機を叩くが一  
向にその回転力は変わらない……。

恵子 ね なにか食べる？ それとも飲む？ 遠慮しない あなたからお金

取ろうだなんて思っていないから

： 飲みます

瀬川

恵子 (笑う) そうこなくちゃね

恵子、麦酒瓶を瀬川の前へ。

恵子 ど？ 旦那がアメちゃんから手に入れたの ちよつとやさつとじゃ飲

めない代物よ(コップに麦酒を注ぐ) さ 一気にいつて

∴(コップ酒を一息で飲み干し、むせかえる)

瀬川 (笑う) まるでムシヨ帰りね

恵子は団扇で首筋のあたりを仰ぎながら、傍らのラジオをON。  
流れるのはアメリカ音楽……。

瀬川 髪の毛

恵子 ん？

瀬川 髪の毛 切ったんですね

恵子 ど？ おかげで随分軽くなったわ 頭(軽く笑い頭を振る)ね？ で  
どうだった？

瀬川

……

恵子

ね だからやめとけばって言ったの

瀬川

自分は別にヨリを戻したいとか そんなんじゃないよ ただ さよならを言いになにも言わず勝手に出たままだったので

恵子

じゃケリついたってわけね？ ちゃんと よかったじゃない これであ

瀬川

なたも面倒なことからは晴れて解放ってわけね（自分のコップにも麦酒を注ぎ、瀬川に差し出す） お祝い 乾杯

恵子

……  
ほら

二人、コップを合わせる。恵子、一気に飲み干す。

恵子

で 役場には？

瀬川

……

恵子

どうするの？ 戸籍もないんじゃないよ 職になんてつけないわよ

ジッポライターで煙草に火をつける恵子。

以後、時折そのライターを手中で鳴らしながら……。

恵子

あたしね 向こうの出次第でさ もしも又あなたがここに還つてきたら もしもそうになったら ちよつと考えてたことあるの うちの旦那の手伝いしてみない？

……

瀬川 恵子

もう難しい顔しないで だって今やってるアレって一日いくらだっけ？ 二十円だっけ？ この炎天下にあんな重労働で それもどうせ手配師には天引きもされてさ 馬鹿馬鹿しくない？

瀬川 恵子

(鼻で笑う風) あのね かつぎ屋だって立派な仕事よ (流行り言葉のように) 権力によって隠匿いんとくされつある米や芋を人民に分け与えているんですもの そりゃかつぎ屋だって毎日毎日満員電車に揺られてサ楽な仕事とおせじにも言えないけど 今時配給だけで食べていけないこと考えれば 同じ運ぶんでもどこに流れるかわからない救援物資の荷揚げよりずっと価値ある仕事 万が一捕まったってうちの旦那は警察にも顔利きくし いつもオマワリには色々融通してあげてんだから

怖いもんなしよ 第一いつまでも地下道に寝るわけいかないじゃない  
あなただだって

……

大丈夫 うちの旦那そんな難しい人じゃないし それにあたしの願  
事だったらなんだって聞いてくれるの ちょうどこの時間だともう  
ぐ顔出すころ あたしが言えば絶対決まり

(立ち上がる)

なに

帰ります

瀬川 恵子 ホント固いのね (紙幣を数枚出し瀬川に握らせる) じゃこれでど  
つかで時間潰してて 夜もう一度顔出してよ 話だけはしておくから

いいです

いいから受け取んなさいって

ダメです

瀬川 恵子 どうせあたしんじゃないんだから 全部うちの人のお金

瀬川 恵子 夜は雨だつてよ 向かいのお天気ババアの予言だ

男子

サングラスをかけたヤミ屋ふうの男。

瀬川は慌てて恵子から離れる。

男 あのパバアの予言は当たったためしねえが今度ばかりは当たってほし

いよな こう暑くちややつてらんねえ

恵子 あんた

(麦酒瓶を手に) 随分と景気いいな

恵子 こちら(瀬川を示し)ほら 前言ったでしょ あたしの前の旦那とフ

イリップピンの収容所で一緒だったって人

ああ あなたですか やあうちのからもよく聞いてますよ(サングラ

スを取る)はじめまして 上村芳雄です

谷村……。

瀬川 ……

どうぞ 座って下さい(瀬川動かず)さどうぞ

瀬川 (座る)

谷村 やあ しかしお互い フイリッピンじゃひどい目にありましたよねえ  
恵子 また始まった

谷村 (麦酒を注ぎ) さどうぞ 遠慮なく

恵子 この人ね なにかつて言うとならフイリッピンは地獄だった フイリッピンは地獄だった そればかり

谷村 女は知らねえから呑気に言えるんですよ 戦争の悲惨さを ね  
恵子 はいはい どうせあたしはなんにも知りませんよオ

谷村 聞きましたでしょ? 宮田少尉殿

?……

谷村 (恵子に) 話してねえのか?

恵子 (背中を向け、煙草をくゆらしている)

谷村 (瀬川に) 実はね あなたが収容所で一緒にいた宮田少尉殿 実は自分らの小隊長だったんです ですからびつくりでしたよ こいつ(恵子) から聞いた時 てつきり最後の突撃で戦死なされた そう思っていましたからこっちは 部隊では大変お世話にもなりましたし 部下として宮田さんの最後のご様子をぜひ奥様にと で復員してやつこの 恵子さん探し出しまして

恵子 なによ恵子さ、んて（笑う）痒くなるわ首筋が

谷村 （笑って恵子を示し）気がついたらこんなことに お恥ずかしい限り

です いやあでも本当びっくりです 小隊長殿がまさか俘虜になつて生きていたなんてね

瀬川 ……

谷村 お気を悪くなさらず こつちは山でがんばつたと言つても食うことで精一杯 戦争どころじゃありませんでしたから わたしだつて機会さえあれば間違ひなく万歳してましたよ（恵子に）それくらい酷かつたんだあそこは（瀬川）ね わたしはね あなた方のお気持ちはよく分かつてます 世間じゃ俘虜をなんだかんだと言う人間がいるようですが 戦争知らない連中にとやかく言う権利なんてありませんよ どうか気を落とさず がんばつていきましよう お互いに

恵子 だからあ その話してたわけ この人 色々事情があつてまだ戸籍戻してないわけ だからまともな仕事につけない

谷村 あんなの役場行つて 生きているつて証明出せば簡単に戻してくれるでしょ

恵子 だからいろいろあるでしょ 事情が

谷村 なんだいろいろつて

惠子 世の中あんたみたいに生きてる人間ばかりとは限らないの

谷村 (笑つて瀬川に恵子を示し) ったく ね もう一時が万事これです

どうか わたしがお力になれることがありましたらご遠慮なく 山と  
収容所 場所は違えど お互い小隊長殿にはお世話になった者同士で  
すから

惠子 (瀬川に) ほらね

谷村 なにがほらねだ?

秘密

谷村 くだらねえこと言つてねえで (懐から札束を取り出し) ほら なんか

買つてこいこれで きつとお腹すかせるだろうから (瀬川に) ね

うちにだつてあるじゃない

惠子 あんな残飯食わせられるかバカ 缶詰買つてこい缶詰 (瀬川に) ね

好きでしょ缶詰 今駅前のマーケットじゃ米軍の上物がけつこう流れ

てんですよ (恵子の尻を叩き) ほら行けつての

惠子 (おどけて) イエツサァー っていうか扇風機どうにかしてよ ちつ  
とも効きやしない

谷村 わかったわかった 今度新しいの見つけてきてやる  
恵子 (谷村に抱きつき) サンキュウー

恵子、出て行く。

谷村 (恵子の背中に) 変にケツ振って歩いてんじやねえぞ その手の女に  
間違われるからな  
恵子 ヤンキーゴーホーム!

恵子、店を出て行く……。

谷村はラジオのスイッチをON……静寂が店内に漂う。  
力なく回る扇風機……。

遠くかすかに駅前マーケットの喧噪……夕闇……。

谷村 あいつの長い髪 おれ 好きだったんだけどな  
瀬川 ……  
谷村 (瀬川の前に座り) 浦賀以来か

瀬川

……

谷村 なんか言えよ

瀬川 ちよつと呆あきれてるんだ

谷村 (笑う) おまえだろうとは思ったよ あいつから話聞いたとき 考えることはみんな同じってわけだ

瀬川 なのに

谷村 違うのか？

瀬川 少なくともおれは こんな 小さな恥知らずはしない

谷村 さんざんいちやついてたくせしてなに言ってるんだ今更

瀬川 おれはおまえとは違う 絶対に

谷村 相変わらず固えのは宮田譲りだな

瀬川 宮田さんの名前を言うな おれは今 やつとの思いで自分を抑えてる

谷村 そうこん詰めんな 困ってるんだろ？ お互い力を出し合って生きてく

道見つけてこうじゃねえか かつぎ屋なんてつまんねえことは言わね

え おまえならちゃんとした役職を用意してやる

瀬川 (笑う) また手下になれって？

谷村 随分と封建的な物言いだな 共同経営者だ(懐から分厚い札束を取り

出し瀬川の前へ放り投げる）見ろ 戦争前と違って 今はこいつがものという世界 基本的に変わりねえのさ今の日本 オレたちがいたあの収容所とな

谷村、机上の麦酒を瓶ごとラッパ飲み……。

谷村

佐々木 覚えてんだろ？ あいつ 家に還つたら母親に短刀渡されてな 自分の墓の前で自決しろつて言われたそうだ 下手に士族の家になんか生まれたのがあいつの運のつき どうにも行き場がなくなつて結局おれんとこに転がり込んだ 今じゃ外山と仲良く満員列車に揺られる毎日だ

瀬川

外山もか

今日日の百姓は下手なヤクザよりも景気がいいからな 馬鹿馬鹿しくて畑なんか耕してる場合じゃねえのさ ま そこんとはおまえの方がよくわかつてると思うが

かつぎ屋の恰好をした佐々木と外山が見える……。

谷村 試しにこいつ（札束）持って国の女房 や 元女房か？ 目の前に突

き出してみな どうなるか見物だみもの

……

谷村 あいつはおまえのことならなんでも教えてくれるのさ なんでもべつに寝たつていいんだぜ なんならおまえ真ん中にして数珠繋ぎつても悪くねえ 収容所思いだしてな

コップ内に残った麦酒を谷村に浴びせる瀬川。

谷村 おまえみてえな人間 民主化させてくつてんだからこれからの日本も

大変だア

瀬川 恥ずかしくないのか おまえはそれでも人間か（！）

谷村 じゃおまえはなんだ 収容所でお世話になった 自分によくしてくれた班長殿 御恩は一生忘れません おまえこそ人間か？

谷村、小型拳銃を取りだし、銃口を瀬川へ。

谷村 聞いたとは思いますが 警察はおれには頭が上がりらん 今ここでテメエ一人あの世に送ったところで痛くも痒くもねえんだからなこっちは

遠雷……。

瀬川 怖いのか  
谷村 なにが  
瀬川 おれが余計なこと言うんじゃないかって だろ？

ジッポライターの炎……港で煙草をくゆらす恵子……。

谷村 じゃあどうすんだ 言うのかおまえは あの女に あの日のこと  
瀬川 ……  
谷村 言えるのか

雷鳴——降りそそぐ豪雨。

フリリッピン——八月十日、深夜。

降り注ぐ雨に濡れる宮田が柵を越えようと——その宮田を止めようと外山、佐々木、谷村、瀬川……（彼らの服装は復員後の服装のまま）。

外山　バカヤロウ　手前正気か！

この収容所内には排水溝がない。そのため所内は水田のごとく粘土質の土が俘虜たちの足にからみつく。

マラリアを患う宮田は、相当に熱が上がっているのか、その目はうつろで息づかいも激しい……。

谷村　宮田さん　みんな辛いんだ　でもこうしてみんな我慢してる  
外山　脱走なんてしてみろ　ただじゃすまねえぞ

宮田

それが我慢している人間の顔か 第一辛いつて言うなら山の連中はもつと辛い あいつらは今でも日本の勝利を信じ 食う物も食わずがんばつてる なのにおまえたちは生き続けるのか こんなところで

外山

(谷村に) どうすんだよ 監視の奴らに聞かれたらお終いだ

豪雨が、俘虜達を濡らしていく……。

谷村

宮田さん 戦争は終わった 日本は敗けた だからおれたちはもう軍人じゃない ただの囚人 囚人ならやることは一つ ここから出ることだ 大手振って 正面から堂々と出てこうじゃねえか そのどが  
悪い

宮田

無条件降伏だ ポツダム宣言を受託したら日本はアメリカみたいな国になる おれはそこまで日本人が愚かだとは思わん じゃなきや死んだ人間は浮かばれん

谷村

……

宮田

おれは山に還る おれと行動を共にする者は一步前へ出る！

降り続く豪雨――。

宮田 誰もおらんのか！ おまえらそれでも日本人か！（瀬川に）瀬川 ど

うなんだ！ 今更命を惜しんでなんになる！

……

谷村 女房はどうする 日本であんたの還り待つてる女房 おまえが還らなくちやならねえのは山じゃない 女房が待つてる日本だ

一人、港で煙草をくゆらす恵子……。

宮田 おれを待つてるのは部下だけだ 山に遺した部下だけだ だからおれは山に還る

瀬川 宮田さん お願いです ここにいるみんなが責任取らされるんです

宮田 どんな責任だ オレたちが取るべき責任はなんだ 責任の取り方も忘れたか 屈辱を受けながらも生き続ける それが貴様の責任か！

瀬川 自分は逢いたいです 国に残した女房に逢いたいです  
宮田 そんなのは墮落だ

宮田、檻へと飛びつきよじ登ろうと——谷村、外山、佐々木が宮田を引きずり下ろそうと——騒然——泥濘にうごめく俘虜たち——やがて谷村らに取り押さえられ、雨のあたりぬ棟内へと引きずられていく宮田……宮田は力つきた様子でうつろな状態……。

瀬川 ……。

豪雨の中、立ちつくす瀬川……。

外山が監視兵に気づかれていないかあたりを確認。

外山 大丈夫だ 気づかれちゃいねえ

降り続く豪雨……。

佐々木 四中隊の二の舞だ このままじゃ本当に還れなくなる  
外山 冗談じゃねえ おれが還らなきゃ誰が畑耕す？ 本当に還らなきゃど

佐々木  
うにもならねえんだ おれんとは  
ヤルしかないよ

豪雨――。

外山  
： なに言つてんだ？ 正気か？  
佐々木 正気じゃないのはこいつ（宮田）だ あの時と同じ こいつは正気じやない

豪雨――。

佐々木 他に手があるのか？ あるなら教えてくれ！ 谷村さん  
外山 無理だ そりゃ無理な相談だ  
佐々木 食つたんだろ 人を食つたに比べりゃわけないだろこんなのは 違  
か  
谷村 瀬川 おまえはこいつの班長だ 班長としてどう取る この責任  
瀬川 ……

谷村 還りたいんだろ 日本に

瀬川 ……

谷村 瀬川

瀬川 どうすりゃいい バレたらそれこそ出られん

谷村 バレねえようにやりゃあいい

外山 無理だ 首絞めるつたつて跡が残る 絶対バレるに決まってる

谷村、腰の手ぬぐいで宮田の口に猿轡……PWの刻印がついた  
た俘虜服を手にする。

谷村 (佐々木と外山に) 抑えろ

豪雨——。

谷村 どうした

瀬川、宮田を抑える——。

佐々木 ……（同様に宮田を抑える）

谷村 外山

外山 勘弁してくれ…（膝をついて懇願する体）この通りだ おれは山でも

一人だって殺さなかった 誰もだ アメ公だって一人も

佐々木 早く！

谷村 （この）秘密を知って無事に還れると思うか 一人殺りやあ二人も三人も同じだぞ おまえもいきてえかあの世に！

佐々木 外山！

外山 チクシヨウ チクシヨウコノヤロウバカヤロウ！（宮田を抑え込む）

谷村 いいか 手を離すな 絶対に

佐々木 早く！

谷村、俘虜服を宮田の顔に押しつける。

やがて宮田は激しく暴れ出す——抑え続ける瀬川、外山、佐々木、そして谷村——降り続く、外の豪雨——。

徐々に宮田の動きは緩慢……やがて完全に、止まる。

俘虜  
……

間……。

谷村

……こいつはマラリアが悪化した朝になっておれたちが気がついた時にはもう死んでた……こいつは殺しじゃねえ……誰もそう思わねえいいな

監視櫓の反射燈が、宮田と俘虜たちを浮かばせる……。

瀬川  
……

宮田の懐から手帳を取り出す……。

俘虜  
……

瀬川、宮田の手帳を開く……。

瀬川

……わたしは 軍靴ぐんかの皮を煮て食べることをおぼえた そのころからわたしは これらの靴を食い果たした時のことを考えていた いや 察知していたというのが正直なところである なぜなら実際 他の部隊でソレが日常茶飯事に行われているということ を わたしは何度か小耳に挟んでいたからだ わたしは無関心になることを恐れていた 感情だ 感情が全て 無関心を消し去る為に一番有効な感情は怒りである 憎しみである わたしは その禁断の道へと流されないためにも このような状況にあつても尚 自分を縛り続けている軍隊の掟を 必要以上に憎もうと努めた

「廃墟」に浮ぶ俘虜たちを囲む屈強な鉄の檻……。

瀬川

しかし 今にして思えば その内心はどうあれ 結果においてわたしはペンを捨て 軍人として戦地に渡り 銃を取り 敵を殺した人間である それが自分の生命の危うさを知った段になって その組織を嫌悪するというのは身勝手な理屈でしかない 故ゆえに今こうして ここに存在する俘虜としての自分も その身勝手が生んだひとつの産物なの

である わたしは ひたすらわたしの崇高を信じる無力な偽善者だった それほどわたしはカニバリズムを恐怖していたのである その恐怖が わたしに恥辱を忘れさせていたのである

佐々木がノートを瀬川から奪い取る。

瀬川

しかし今 わたしは自身のその身勝手に気がついている ここに来てからというもの わたしはそれを認めたくないばかりに 時にはシニツクに 時にはニヒルに このわたし自身を装よそおい続けた しかしそれこそが わたしが最も恐れた無関心の形態だったのである わたしがカニバリズムから逃れる代わり 自身の誇りを売り渡したというこの取引 その結果が わたしの中に最大の無関心を呼び起こしたというのはなんと皮肉な結末だろう 恥辱を抱きながらも 平穩を装い生活するわたし そしてそんな自分に対しなんの疑問も持つまいと努めようとするこの無関心は やがてわたしを墮落の底へ叩きつけた

動かぬ復員姿の俘虜たち……。

## 瀬川

しかしわたしには 最後の希望があった それは最終的には 国家がわたしを殺してくれるだろうというある安心である だが日本の降伏は そうしたわたしの最後の希望さえも見事に打ち砕いた 無条件降伏 これを単なる運命として受け入れるには わたしの払った代償はあまりにも大きい わたしは何度 このまま海に飛び込んでしまいたい衝動に駆られたことか しかし今となつては それさえもわたしの身勝手が生んだ 卑怯の一形態でしかないことをわたしは知っている 一度誇りを捨てた人間は 死ぬ意味すらも見いだし得ないと気がついたとき あらためてわたしは わたしが失つたものの大きさを知つた そして 現実の前に限りなく無力である人間の存在を痛感した これは奴隷の性格に似ている 死ぬことも許されぬ奴隷 あの日 軍刀の先に 汚れた自身の下帯をくくりつけ 米兵の前へと進んだあの日から 現実はわたしから全ての生き方を奪い去つていたので だからといってわたしは この責任を決して戦争のせいにはしないつもりである あくまでこれはわたし個人の問題であり わたしの責任なのである 唯一戦争が果たしたものとさえ それをはつきりとわたしに気づかせてくれたという介護の役割としてであろう それが 生き

てなにひとつ成し得なかったわたしの 最後の誇りなのである

雷鳴——港で煙草をくゆらす恵子……。

八月十四日——深夜。

山元

： 確かかね

清水

酔い方が尋常じゃなかったらしく 店の者がよくおぼえてました 瀬川は誰も殺してません あの日 瀬川は上村の店には行かなかった  
これが事実です

ポタリポタリと水滴がコンクリートの床を叩く……。

清水

事件は毎日起きている こう言っではなんです 死んだのはたかが  
飲み屋の女 それも殺しの確証すらない 見方を変えれば自殺でも充  
分説明できます それが例の出歯亀が出てくれたおかげで殺しにまで  
なった これだけでも御の字 ここいらが引き際でしょう

山元

向こうだって出てないだろ 物証は

清水

五人も殺ってる男です 五人が六人になろうが七人になろうが端からから死刑は決まってる その出歯亀だって 最後の人助けでうまい具合に供述すればいい あとは愛宕の腕次第

山元

……

清水

並木さん あんた 瀬川のことより 少しは自分のことを考えた方がいい 言っていることわかりますね

カチリと上村のジッポを鳴らし煙草を吸い始める並木……その紫煙が留置場内をどんよりと流れる……。

ポタリポタリとコンクリートを叩く水滴……。

鉄の柵内には呆然と立ち尽くすように、俘虜たちも……。

並木

(瀬川に) おまえ 万歳した時なに考えてた

……

瀬川

別に深い意味はねえ 今後の参考にしようと思ってさ

……

並木

おまえがおれより優れてる点の一つだけある おまえは引き際を間違

えなかった だから生き残った（手中のジッポを見て）引き際を逃し  
ちまった人間の最期は惨めなもんさ

瀬川

前ばかり見て人生を生きると とんでもねえ落とし穴に落ちこんじ

まうのよ 人間は

恵子 今更なに（!?）「生きて虜囚の辱め」受けた人間が

並木

恵子 見てよ（あたしを）ふりよ 俘虜がどうのこうのなんて言ったら今の日本人は

みんなそう あなただけじゃない つい一年前なら敗けた責任とって

どうこうなんて人もいたようだけどサ 今はど？ 誰が考えてる？そ

んなの みんなわかったの 要は生き残った者が勝ちだったってこと

そう あたしたちは勝利者なの 違う？

遠く雷鳴……恵子、カチリカチリとジッポを鳴らす……。

恵子

女にはね 人には言えない秘密がある でもあたしはそれを隠さない  
だけ それを墮落っていうなら あたしの墮落はきつと今に始まった

ことじゃない

恵子は並木に歩み寄る……並木、動けない……。  
やがて恵子は並木の身体を抱きしめる。

恵子

こうして波の音を聞いていると ふわふわ揺れて…… 深い 海の底に  
堕ちてく気分……

並木、恵子を突き飛ばす——恵子は港の縁に押し返される。

恵子  
 瀬川  
 どしたの やっぱり変よ今日のあなた  
 それはあなただ

遠雷……波音。遠く港に停泊するアメリカ軍隻の喧噪……。

恵子  
 瀬川  
 別に一生面倒みろとかややこしいこと言ってるわけじゃないんだし  
 戦地の垢落とす気分で 少し気楽に考えたら？

お願いです 自分にできることがあるなら言ってください 自分はあ  
 なたのためならなんだってします しなくちゃいけない義務がありま  
 す

恵子  
 瀬川  
 なら抱きしめて あたしを

瀬川  
 駄目です

恵子  
 瀬川  
 嫌い？ あたしのこと

瀬川  
 ……

恵子 (笑う) なに そんなにショックだった? 今日うちの旦那に逢った

のが

… どういう意味です?

恵子 どういう意味だと思おう?

ジッポを鳴らし、煙草を吸い出し、その手でライターを弄ぶ恵子。

瀬川 還りましょう

恵子 どこに?

……

瀬川 どこへ還るの

恵子 どこだつていい ここじゃないならどこだつて

瀬川 はつきり言ったら? こいつは牝犬 おれたちがどんな想いで生きて

いたかも考えないでただテメエの欲望のままに突き進んできた俗物

……

瀬川 あなたが今考えてること でしょ? 口の中でグチグチ濁さないでは

恵子

つきりそう言ってくれた方が気が楽 男ってみんなそう 腫れ物にでも触るみたいにみんなあたしを怖がって そのくせ心の中じゃ軽蔑しきつてる この淫売め  
瀬川 そんなこと思ってますん  
恵子 じゃあなんで宮田の話なんてすんのですよ！

雷鳴……。

恵子 あああ なんだかいっぺんに最悪な気分 まいいか この際はつきりさせといた方がいいもんね いいわ なんでも言つて 別になに言われたつて怒りやしないからあたし

瀬川 ……  
恵子 どしたのよ 急にダンマリ？

瀬川 ……  
恵子 じゃああたしが言うわ おまえは宮田の戦死公報を貰ったときになんで死ななかつたか ど？ 確かに死んでたら楽だったでしょうね こうして軽蔑されずにもすんだだろうし

瀬川

軽蔑なんてしてない

恵子

嘘 恥知らずな女だと思ってる でもここが難しいところ あなたは

それを言えないでいる なぜ？ あなた自身が 自分を恥知らずだと思ってるから でしょ？ 夫の死を知り妻が操を守って死ぬのが美談だつて言うなら 俘虜になった自分こそ死ななくちゃならない だからあなたはなにも言えない だからあなたは 奥さんを弟さんに取られても なにも言わずに引き下がるしかなかった

瀬川

ぼくは操をたてるのが美談だとは思いません そういう なんていうか ある種の理想を掲げて生きていけないってことは 自分が一番よく知ってます 現実の前では誰だつてそうするしかなかった あなただつてそうだ あなたは好きで宮田さんの家を飛び出したわけじゃない あなたは追い出された

……

瀬川 恵子

戦死となれば一時賜金しきんや年金 相当額の金が国からおりる 問題はその金の行く先だ あなたの家にしてみれば あなたは軍国の妻なわけだから金を貰う資格があると言うし もちろん宮田さんの家にしたつて自分たちの息子だから当然全額貰わないと気がすまない そうこう

揉めてるうちに あなたは突然宮田さんの家から離縁を言い渡された  
離縁させればその金が丸々手に入ると先方が考えたからです その  
あとあなたが農家に嫁いだのだから 別に男目当てで行ったんじゃない  
ない あれはあなたの実家が 農家の食糧を得るための繋ぎ役に――  
それがなに？ だからって今のあたしのこんな状態がどうにかなるわ  
け？ それとも逢う男逢う男にいちいち説明して回ればいいわけ？  
これこれこういうわけであたしは今こんなになっちゃってるんでござい  
ます 可哀想な女だと思つて ちったあ大目に見てやつて下さい云々  
じゃあなたも言つてまわれれば？

瀬川

恵子

……

言いなさいよ 俘虜だ俘虜だと一口に申しますが 現在の人間が考  
えているほど簡単なものではないのでございます もしも友軍に見つか  
れば銃殺ですし 白旗挙げたといつてもアメちゃんが受け入れてくれ  
るとは限りません まさに命がけの所業 第一国に残された家族のこ  
とを思うとそりやもう心が引き裂かれる思いなんでござえます ホラ  
必要以上に自分を蔑むような態度を取らなくてもいいんじゃないかっ  
てことです

瀬川

恵子 あれ あたしがいつ自分を蔑むような真似をしてるんでござえますか  
いつもです

恵子 そんなつもりなんて毛頭ないでござえますよ

瀬川 その話し方だつてそうじゃないか

恵子 ほら出てきた 話し方が気に入らないわけねあたしの 他は？

瀬川 ……

恵子 あたしね 自分のこと棚にあげてサ 女は戦争のことなんかにもわ  
からねえだなんて嘯く男も我慢できないけど あんたみたいに さぞ  
自分は苦しんでるみたいにされるのも見てて厭やになんのよ

瀬川 そんなつもりなんかありません

恵子 物語ってんのよ あんたの身体からだが 日本の不幸ひとりで背負ってるよ  
うな顔してさ さぞ気分がいいでしょうね 男はみんなそう 本当は  
一日一日の生活で頭ん中いっぱいなくせして なんの意味もないお説  
教並べて それが文化ですつて 教養ですつて 厚かましいったらあ  
りやしない

瀬川 ぼくは君を教育しようだなんてなんて思ったこともないし ましてや  
特別自分を不幸だなんて思つてもない 不幸つて言うなら自分だけじ

恵子　やなくて みんなもそうだって ただそう言いたいだけです  
ちよつと待って あたしがいつ自分が不幸だって言ったの？

瀬川　言つちやあいないけど そういう態度が――

恵子　あたしは別に自分不幸だなんて思ったこともないし もちろん幸福だとも思つてない 不幸だとか幸福だとかそんなことが問題じゃないの  
ただこうして 結果的にあたしはこんなふう存在してる それだけ  
あたしの言いたいののは

瀬川　だからぼくだってそうなんです

恵子　じゃどうして抱きしめないの？ お互い白旗挙げた者同士 仲良くし

ようつて言つてんじゃない

瀬川　それとこれとは違います話が

恵子　どこが違うの？ あなたは思つてる 抱きしめたい 女がそんなこと  
わからないと思つて？ あなたはあたしを抱きしめたい でもできない  
い なぜならそれをしたら自分は畜生になつてしまう だから頭の中  
でいろんな理屈？ 境遇だとか 過去だとか そんなものをいろいろ  
こねくりまわして 自分を正当化させるのに躍起になつてるだけ

瀬川　違う

恵子 宮田だってそう 現実を認めたくないもんだから なんだかんだ回り

くどい屁理屈を長々と並べちゃってサ

……？

瀬川 恵子 わたしは 軍靴ぐんかの皮を煮て食べることをおぼえた そのころからわたしは これらの靴を食い果たした時のことを考えていた いや 察知していたというのが正直なところである なぜなら実際 他の部隊でソレが日常茶飯事に行われているということ を わたしは何度か小耳に挟んでいたからだ

雷鳴近く……恵子は宮田のノートを出し、読み上げる。

恵子 わたしは この責任を決して戦争のせいにはしないつもりである あ

くまでこれはわたし個人の問題であり わたしの責任なのである 唯一戦争が果たしたものとさえ それをはつきりとわたしに気づかせてくれたという介護の役割としてであろう それが 生きてなにひとつ成し得なかったわたしの 最後の誇りなのである

瀬川

……

恵子 なにびっくりした顔してんのよ おかしくないでしょ？ あたしが持つてたって あたしの今の生活考えれば

ポツリポツリと水滴……。

恵子 言っとくけどうちの人じゃないわよ そんな勇氣あると思う あの  
に

谷村……。

恵子 富田よ ああ 富田って言ったってわからないか 収容所では確か佐  
々木って偽名で通してた人

佐々木……。

恵子 あいつがうちの人の世話になるとき ああ あなたにとつちやあ谷村  
ね 谷村の世話になるとき 内緒にこいつを持ってきたの であたし

の前で告白したの 我慢出来ませんって 泣いて告白したの

あいつ… なんて言っただけです

なになんてって

あいつはなにを言ったんです

なにもかもよ

水滴、やがて多くなつていく……雨……。

恵子  
あたしが知ってたなんて夢にも思っていないでしょうねうちの人も  
シアワセな人

雨が本降りに……。

恵子  
あなた 宮田があの日 どうして柵を越えようとしたかわかる？

… 山に残した部下の元に――

恵子  
(笑う) 馬鹿 あんたほんと人がいいんだわ 彼が脱走を試みたのは  
自分が戦犯に指名されるのを知ってたからよ 罪状は住民虐殺 ゲ

リラと内通している疑いのあった村を 宮田が命令を出して全員スパイ容疑で殺した 日本の敗戦を予期していた彼は 敗ければ自分が戦犯になるのを予感してた 彼が将校棟に入らず階級詐称してまで一般兵舎に入ったのもそれが理由

嘘だ

瀬川 富田が全部話したの 山で同じ部隊だったんだから で逃げる女子どもを銃剣で殺したのあいつは 宮田の命令で

瀬川 宮田さんはそんな人じゃない 第一戦犯を恐れているなら本名を名乗るはずがない 戦犯を恐れてたんなら尚更です 佐々木の言うことは全部嘘です あいつは宮田さんを恨んでた 正当化して言うならそれはあいつです だからそんなくだらないこと並べて

恵子 どっちが本当か それこそ藪の中ね

瀬川 宮田さんが本名を名乗ったのは 自分が生きていることをあなたに知らせたかったからです 万に一つの可能性を信じて あなたに自分が生きていることを伝えたかった だから――

恵子 ね 言わなかった？ どっちだっていいのそんなこと こん詰めて考えたってなにが変わる？ 現実としてあの人は死んでんだから 生き

返るわけじゃないんだから でしょ？ あたしたちはその現実をただ受け入れるしかないわけ 理由なんて問題じゃない 過程なんてクソくらえよ！ あんたみたいな感傷主義の固まりがなんだかんだ言つてると あたしたちは一步も前に進めなくなるわ

瀬川 違う それは違う ぼくらは過去を反省して そして二度とあんなことが起こらないように いろいろ考えて こん詰めて考え抜いて 目の前にあるこの現実を突き崩そうと 少しでもこんな状況がよくなるように

恵子 どうしてそういう見え透いた嘘つけるわけ？

……

瀬川 恵子 そんなこと考えて生きてるわけじゃない みんな自分の生活考えるだけで精一杯じゃない そんなことこん詰めて考える暇があんなら 道ばたに落ちているシケモク拾い集めてた方がまだよくてよ

瀬川 そんな筈ないじゃないか そんなことがあつていいわけじゃないじゃないか どうでもいい筈がないじゃないか なんで宮田さんが脱走を試みたか 言う通りだよ そんなこと考えたって宮田さんが生き返りはしない それはぼくも認める でもだからってどうでもいいという話に

はならない ぼくは宮田さんを信じる あの人は最後まで自分の誠意を捨てなかった そうぼくは信じる だからぼくはこうして生きていられるんだ

恵子 違うでしょ 宮田を殺したおかげでしょ あなたが生きていられるのは

瀬川 ……

雨……激しく……。

恵子

(笑う) 大体あなたが生きてる? あなたなんてね あたしから見たらね そうね まるで出家したお坊さん 頭丸めて 墨染めの衣着ころもちやつてサ 抜け殻みたいになっちゃった幽霊 そう 丁度今 市ヶ谷でナニされてる人たちと一緒によ いいわよねえ男の人はア 腹を斬らなきや出家すればいいんだから

瀬川

話を濁すのは止めろ

恵子

濁しちゃないわ 現実に男はそうだからそうだと聞いたまでよ

瀬川

おれのことなんてどうだっていい 今は君のことを話してる

恵子

なら生きているとかそんなこと言わないでよ！

瀬川

現実に生きているから生きてるって言ったんだ 君だってそうだ 君

恵子

だってどこかで信じる 宮田さんを 信じているからそうして生きて  
いけるんじゃないか

瀬川

なによそれ あたしの心よ なんであんたに決められなくちゃなん  
なの？

じゃなんでそんな手帳を持つてる 信じてないなら そんな手帳なん  
の意味もない ただの紙切れ でも現実はずう 君はそうして いっ  
だって宮田さんの誠意をそうして胸に抱いて生きて来たんだ

恵子は宮田のノートを破り捨てる――。

恵子

ど これで気が済んだ？

瀬川

……

瀬川、ノートを拾おうと。恵子がそれを阻止しようとして――泥  
濘に濡れる二人――騒然――無理矢理瀬川の唇に自分の唇を

押しつける恵子。

瀬川 (恵子を殴りつける)

恵子 …… 痛アい

降り続く雨……恵子の鼻からは鮮血……。

瀬川 君は… 馬鹿だ

恵子 (流れる鼻血を手の甲で拭い、やがて笑う) あたしの生活は変わらな  
い 朝になったら起きて 夜になったら眠る お腹がすいたら食事を  
して たまにお酒を飲んで管くだを巻く これから これからずっと (笑  
う)

……

瀬川 なに? もしかして泣いてるの?

恵子 (肩が震えている) ……

恵子 泣いてもなんにもならない だからわたしは泣かないの 絶対に

雨……。

恵子

昔ね 神父さまに言われたことあったわ 人はかならず 生きている  
間になにかひとつ 致命的な誤りを犯す それほどんな人間にも絶対  
に避けられない だから人は神に祈るんだ だからあたし祈ったわ  
これはきつと夢 こんなことがあるはずない あたしを救って下さい  
でもなにも起きなかった(笑う) 神風は吹かなかったってわけ き  
つとそうしてあたしを弄んで楽しんでたの神さまは それからよ あ  
たしは神さま信じるのやめたわ

恵子は瀬川にしがみつく……。

恵子

ねえ 寒いのが 暖めてよウ ねえつたら

瀬川は恵子を突き飛ばす——一瞬、海へ墮ちそうになる恵子。

恵子

あなたも弄ぶんだ あたしを

瀬川　　ぼくはあなたが好きだ　でもぼくには　そんな恥知らずな真似はできない

恵子　　嘘　信じないそんな話

瀬川　　ぼくはあなたが好きだ

恵子　　嘘　あなたは戦争に行つて　女に興味をなくしちゃつたんでしょ　あなたはまだもう男じゃないんでしょ　違う？

やや間……。

恵子　　富田が言つてた　あいつ　あたしが気にしてないつて言つてやつたら

とたんに元気になつていろんなこと話してくれるの　おかげで随分暇つぶしになつたけど　あんたのこともいろいろ話してくれた　随分有名人だつたらしいじゃない　あなた

……

瀬川　　自分の都合の言いようご大層な理屈並べてるけどなるほどねえ　そう考えればなんとなく辻褄あうもの　奥さんの件にしたつてそう　いくら家の犠牲が云々言つたつて　普通そう簡単に納得できる話じゃない

ものねえ

馬鹿言うな!

恵子 瀬川  
あたしは淫売 男から男へ乗り換えて それで生き残ってきたの で  
もあたしはそれを隠したりしない あなたみたいに隠したりはしない  
わ あんたらみたいに隠したりはしない!

立ち尽くしている俘虜たち……。

恵子

山では部隊長の愛玩 収容所じゃ食い物と交換に身体売って 戦争が  
終わって 所内で演芸大会が開かれるようになるよ たちまち女形の  
大スターですかア?

瀬川

やめろ

男のナニをくわえ込んで生き延びてきたくせに 偉そうに人に説教す  
んじゃないわよ!

瀬川

(恵子の口を塞ぐ)

恵子、瀬川の手に噛みつく——瀬川、恵子から離れる。

瀬川 それ以上言うな それ以上言うとは

恵子 それ以上言うとなに 殺す？

瀬川 黙れ

恵子 いいのよ殺したって なんか生き続けるのもちよつと疲れてきちゃつたしあたし ほら

港の縁に立つ恵子。

恵子 ほら 一思いに突き飛ばしてよ

瀬川 ……

恵子 だってあなた戸籍ないんでしょ？ じゃもしもあなたがここであたしを海に突きおとしたって犯人はいないってことになるじゃない だって戸籍がないんじや幽霊と同じ 幽霊が人を殺せるはずないもの

瀬川 黙れ！

恵子 (瀬川に迫る) ほら 殺しなさいよ！

瀬川 ……！

恵子を突き飛ばす瀬川――。

瀬川  
……

海の中へと墜ちていく恵子――。

宮田  
……

雨に立つ、宮田……恵子はそれに引き寄せられるように……  
高鳴る波音――雷鳴。

瀬川  
……

遠く港に停泊する船舶群の船笛――それが幾重にも重なり、  
まるで重奏のように……。  
やがてあたりは静寂……ポタリポタリと水滴が床を叩く……。

カツンカツンと階段を叩き、留置場へと下りてくる三人の男。  
山元、清水、そして愛宕署に向向していた本庁の佐藤。

山元　　という結局七人どまり？

佐藤　　十人はやつてる筈なんだけど　なかなかね

山元　　佐藤ちゃんの腕ならこつちもどうかしてくれらと思っただけどき  
佐藤　　どうしようもないよ自白だけじゃ

清水　　自殺で処理するしかないです　充分できますよ　説明は

地階には瀬川と並木……。

佐藤　　（並木を見つけ笑いながら）おつ　並木ちゃん　今回は派手にやつ

てくれましたねえ

山元　　（並木に）本部長通達だ　瀬川は釈放　実は近々進駐軍の監査が入る

らしくてね なんといつでも相手は民主主義の国 勾留理由のない者をいたずらにとめておくとなにかとき

……

並木 時々わからなくなるよ 昔は悪くて今がいいとは一概には言えないだろうし だからって今が悪くて昔がいいとも一概にも言えない

佐藤 今この国でなにかやろうとすりやあアメリカの後ろ盾ないとなにも出れないわけですから 現実として（並木に）下手に逆らえば沖縄で強制労働が待ってるらしいしな（笑い）

山元 ま はつきりしてるのは どこか 不自然ってことだけだね

佐藤 以上 幕引き（笑う）

山元 瀬川 出ろ

……

山元 瀬川 釈放だ

……

山元 瀬川 あんまり世話かけんな ほら

山元、瀬川を檻の外へ……。

山元 おまえは殺さなかったんだ 誰一人

瀬川 ……

佐藤 山ちゃん 今日なにかある？ ど 久しぶりに（一杯）けっこうアメ

山元 さんの上物が出す店あつてさ

佐藤 上村の旦那が仕切つてる店かい？

山元 さあ 誰が仕切つてるかまではね

瀬川を引き連れ、階段を上つていく瀬川と刑事たち……。

山元 悪いけどちよつとね 並木のさ 線香の一本でも

佐藤 ああ 例のね（笑う）

山元 佐藤ちゃん あんまり外で余計なことしゃべり歩かんでよ

佐藤 べつになにも言つてないよオレは

山元 どうだか

佐藤 とにかく これであいつも幕引きだ

去つて行く刑事たちと瀬川……。

一人柵内に残される並木……。

潤子 兄さんは？ 飲まないの？（アルマイトのコップを差し出している）

挺身隊の制服を着た潤子……。

並木 （潤子が差し出すコップを手にする）……

潤子 （別のアルマイトのコップを手に）カンパイする？

並木 …… そうだな 完全に敗けたわけだから

潤子 そっちの完敗ね

並木、ヤカンのカストリを自分と潤子のコップに注ぐ……。

潤子 ……

潤子が手にしていたアルマイトのコップが床を踊る……。

並木 でした

潤子 なんだか さっき飲んだのが効いてきたみたい

並木 だから言つたろ これは強いんだって

潤子 なんだか 眠くなってきたわ

並木 眠つたらいい 明日からいろいろゴタゴタするだろうし

潤子 (並木の膝に頭を置き) 意外と なにも変わらなかつたりして

並木 ……

潤子 (目を閉じる) おやすみ

並木 …… おやすみ

眠る潤子……並木が一人取り残される格好に……。

彼の手には、それが注がれたアルマイトのコップ……。

朕深く世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾  
セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク 朕ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇  
四国ニ対シ其ノ共同宣言ヲ受託スル旨通告セシメタリ……

鳴り続ける一隅のラジオ……並木、動かない……。

やがて玉音放送をかき消すように、演芸大会に興じる俘虜たちが見えてくる。

女形を演じているのは瀬川……盛り上がる演芸大会をよそに、並木はジッと動かず。

やがて俘虜たち、酒を酌み交わし……万歳三唱の体で、

「カンパイ カンパイ カンパイ！」

並木

(コップを掲げ)

——鉄扉が閉じられる。